

第 52 回自治体学校 in 福井

7月31日から標記の集会があり福井市に行った。敦賀で途中下車したあと、福井のまちを散策した。福井鉄道の路面電車に乗り、えちぜん鉄道三国芦原線の駅でもある田原町駅で下車した。風情ある駅舎に懐かしさを感じた。集会まで時間があり、暑いなか福井県立歴史博物館まで歩いた。広い公園に建てられた立派な博物館であり、とりわけ「昭和」の展示が興味深かった。



初日の会場は田原町駅近くのフェニックス・プラザであり、開会挨拶のあと、基調講演・リレートークと続いた。リレートークは順に「一括交付金、何が問題か」「保育制度『改革』が産む子育ての危機」「能登に生きるエネルギー」「反貧困と自治体行政」であり、いずれの報告も現代日本の現実を考えさせるものであった。なかでも反貧困の湯浅誠報告は、厳しい現実をリアルに伝えるもので、参加者に鋭く問題を投げかけた。



当日ちょうど福井祭が開催され、フェニックス通りは「ヨサコイ踊り」などで賑やかであった。ホテル近くの居酒屋に行くと、通りの賑わいと違って閑散としていた。居酒屋主人は祭りの功罪を熱っぽく語り、福井という県やまちづくりの現実を知ることができた。翌朝は例により早起きして、ホテル近くを散歩した。石垣と堀が残る福井城址に行き、福井という名の由来となった「福井の井」という井戸や福井地震の跡を見ることができた。



(2010年8月16日 記)